大阪インターナショナルチャーチ　　ダニエル・エルリック牧師　　2011 年 10 月 9 日
シリーズ: 使徒言行録 #07　　聖書箇所 (新共同訳): 使徒 2:40-47　　Key Verse: 使徒 2:40-41
タイトル: 変えられたコミュニティー　　特別行事: 子どもたちのためのメッセージ

おはようございます。ここ大阪インターナショナルチャーチでは、いろいろな国からの人々が集っています。また、海外在住経験がある日本人の方、海外旅行をしたことのある日本人の方もたくさんおられます。海外に住むと、自分の文化について以前は気がつかなかったことに気づくようになります。それは、良いことも悪いこともあるのですが、どちらにせよ、海外に住むと、以前は当たり前と思えた母国の慣習が、奇妙にさえ思えたりします。

例えば、私は来日して以来、アメリカ文化が非常に個人主義であることに気づきました。アメリカ人の個人主義的な考え方は、アメリカ人クリスチャンの聖書の解釈にも現れていると思います。アメリカの教会では、一個人の歩みとしての信仰に重きを置く傾向があります。ですから、信仰の決断は自分自身でしなければならないことや、イエスとの個人的な関係について、またひとりで聖書を読んで祈る個人デボーションの重要性について多くを語ります。これらは悪いことではありません。実際、これらのことは聖書の教えに基づいた必要不可欠なことばかりです。

しかし、アメリカ人は個人の信仰を強調するあまり、聖書が集団での信仰体験を強調しているということを見落としがちだと思います。全体的に見れば、聖書は個人以上に全体を重んじていると私は思います。**マタイ 18:2**0 で、イエスはこう言っておられます。**「18:20 二人または三人がわたしの名によって集まるところには、わたしもその中にいるのである。」**また、**使徒 1:14** では、弟子たちが聖霊降臨を待つ間、どう過ごしたかを次のように語っています。**「1:14 彼らは皆、婦人たちやイエスの母マリア、またイエスの兄弟たちと心を合わせて熱心に祈っていた。」**イエスの御名によって集まることに何か特別な意味があったことは明らかです。

聖書に描かれた信仰の歩みは、一人旅というよりは、団体旅行のようなものです。イエスは、12 人の弟子たちを選び、ご自身とともにいるようにされました。そしてイエスは多くの人たちと食事をしたり話したりして時間を過ごされました。もちろん、イエスは一人の場所に行って祈られましたし、これは私たちにとって重要な模範です。しかし、聖書を注意して読めば、個人よりもコミュニティー全体に重きが置かれていることがわかるはずです。信仰の歩みは、お互いがともに歩むべきなのです。信仰の決断は自分自身でしなければなりませんが、信仰生活はみんなとともに営むものです。また、周りの人たちのサポートがある環境なら、個人の信仰の決断さえ、もっと容易になるでしょう。

聖書が教会どのように描写しているか考えてみましょう。**コリント第一 12:27** にはこうあります。**「12:27 あなたがたはキリストの体であり、また、一人一人はその部分です。」**まず、教会はキリストの体です。

教会は、キリストの花嫁でもあります。**黙示録 19:7** にはこうあります。**「19:7 わたしたちは喜び、大いに喜び、／神の栄光をたたえよう。小羊の婚礼の日が来て、／花嫁は用意を整えた。」**

教会は、神の住まわれる霊的な家、神殿でもあります。そして、私たちはそれぞれが霊的な建物の生ける石です。**ペトロ第一 2:5** で、ペトロはこのように書いています。**「2:5 あなたがた自身も生きた石として用いられ、霊的な家に造り上げられるようにしなさい。そして聖なる祭司となって神に喜ばれる霊的ないけにえを、イエス・キリストを通して献げなさい。」**

これらのイメージの強調点は、個人個人の信徒たちがひとつにされ、神にささげられた新しい共同体となることです。**ペトロ第一 2:9-10** を見てみましょう。**「2:9 しかし、あなたがたは、選ばれた民、王の系統を引く祭司、聖なる国民、神のものとなった民です。それは、あなたがたを暗闇の中から驚くべき光の中へと招き入れてくださった方の力ある業を、あなたがたが広く伝えるためなのです。2:10 あなたがたは、／『かつては神の民ではなかったが、／今は神の民であり、／憐れみを受けなかったが、／今は憐れみを受けている』のです。」**ペトロはここで何を言おうとしているのでしょう。それはこういうことではないかと思います。私たちは一人ひとりが様々な国、民族、言語の背景を持ってイエスのもとへ来ましたが、イエスのもとへ来たときに、神の民という新しい者へと創り変えられました。

あるとき、ある場所で人々が信仰を持つとき、その一個人のみならず、民族や国民全体が神の民という新しい国民とひとつにされるのです。バベルの塔の話を覚えておられますか。1595 年に、ルーカス・ヴァン・バルケンボルクは、バベルの塔をこのように描きました。これは創世記 11 章に登場する話で、このようなあらすじです。昔、世界中の人々は、ひとつの言語を話し、文化もひとつでした。しかし、神を礼拝することで一致するのではなく、神に反抗する企てで一致しました。神をたたえるのではなく、自分たちが有名になろうとしたのです。このように団結した反逆を神がお許しになるはずがありません。そこで主が降って来られ、人々の言葉を混乱させたので、人々はお互いの言っていることが理解できなくなり、散り散りになりました。これがあらゆる言語と文化の始まりです。

**使徒 2:9-10** を数週間前に学びましたが、もう一度見てみましょう。**「2:9 わたしたちの中には、パルティア、メディア、エラムからの者がおり、また、メソポタミア、ユダヤ、カパドキア、ポントス、アジア、 2:10 フリギア、パンフィリア、エジプト、キレネに接するリビア地方などに住む者もいる。また、ローマから来て滞在中の者、」**使徒 2 章で聖霊が弟子たちに降られたとき、エルサレムには多くの国々の人たちが集まっていました。しかし、そのすべての人たちが自分の母国語で弟子たちが語るのを聞きました。この奇跡は、歴史上の事実であると同時に、あらゆる国民の一致が回復されたという象徴でもあります。ある意味、ここで起こったことはバベルの塔で起こったことの正反対であり、いつの日か、地上のすべての人々に一致が再びもたらされることを示しています。そして、その時、人々は神への賛美でひとつとなるのです。

ですから、イエス･キリストの良い知らせを語るとき、個人の救いだけではなく、神との交わりの回復やコミュニティーの形成を地球規模で語っていることになります。使徒言行録の次の章を少し見てみましょう。**使徒 3:19-21「3:19 だから、自分の罪が消し去られるように、悔い改めて立ち帰りなさい。 3:20 こうして、主のもとから慰めの時が訪れ、主はあなたがたのために前もって決めておられた、メシアであるイエスを遣わしてくださるのです。 3:21 このイエスは、神が聖なる預言者たちの口を通して昔から語られた、万物が新しくなるその時まで、必ず天にとどまることになっています。」**

ここで、ペトロはすべての人が自分の罪を悔い改めて神のもとへ立ち返る必要性を強調しています。また、イエスの再臨についても語っています。しかし、**「万物が新しくなるその時まで、」**とペトロが語っている部分に注目してください。個人の救いは、イエス･キリストの良い知らせの

一部分に過ぎません。万物が新しくされるという約束もまた、良い知らせなのです。それは、人間の新しい共同体の形成も含まれます。そこでは、人々が神への礼拝で永遠にひとつとされます。その共同体の形成は、イエスの再臨まで完成しませんが、すでに始まってはいます。その始まりは使徒 2 章にあります。**使徒 2:40-47** を先週も読みましたが、再び読みましょう。今回は、信徒全体に何が起こったかを見ていきたいと思います。

I. 聖書朗読　使徒 2:40-47、新共同訳

> 2:40 ペトロは、このほかにもいろいろ話をして、力強く証しをし、「邪悪なこの時代から救われなさい」と勧めていた。 2:41 ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。 2:42 彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。2:43 すべての人に恐れが生じた。使徒たちによって多くの不思議な業としるしが行われていたのである。 2:44 信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、 2:45 財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。 2:46 そして、毎日ひたすら心を一つにして神殿に参り、家ごとに集まってパンを裂き、喜びと真心をもって一緒に食事をし、 2:47 神を賛美していたので、民衆全体から好意を寄せられた。こうして、主は救われる人々を日々仲間に加え一つにされたのである。

II. 教え

ペトロは、一人ひとりが悔い改め、信仰を持たなければならないと語りましたが、その結果生まれたのは、ばらばらに行動するたくさんの信徒ではなく、新しい信仰のコミュニティーでした。**41 節**はこう言っています。**「2:41 ペトロの言葉を受け入れた人々は洗礼を受け、その日に三千人ほどが仲間に加わった。」**先週は、人数に焦点を当てました。一日のうちに三千人が洗礼を受けたのです。主を賛美します。しかし、ここで、**「仲間に加わった」**という表現に注目してください。これは、名簿を作ったという意味ではありません。実際、名簿を作ったかもしれませんし、新しい信徒の人数を把握していたのは確かですが、ここで言おうとしているのは、コミュニティーです。それはとても喜ばしいことです。孤独は現代社会における大きな問題のひとつです。しかし、イエスの良い知らせにその答えがあります。孤独の問題には解決策があります。それは、愛に満ちた信仰のコミュニティーに加わることです。

イエスを主であり救い主として信じるとき、神との関係が回復され、神との交わりを持つようになります。それが基本ですが、それで全部ではありません。救いのもうひとつの大切な部分は、信仰のコミュニティーに加えられるということです。新しい家族を得るのです。新しい家族の家長は神ご自身です。そして私たちはみな神の子であり、互いに兄弟姉妹となります。これについて、**ローマ 8:15-16** はこのように表現しています。**「8:15 あなたがたは、人を奴隷として再び恐れに陥れる霊ではなく、神の子とする霊を受けたのです。この霊によってわたしたちは、「アッバ、父よ」と呼ぶのです。 8:16 この霊こそは、わたしたちが神の子供であることを、わたしたちの霊と一緒になって証ししてくださいます。」**ですから、教会は神の家族です。そして仲のよい家族は、お互いとともに暮らします。

初代教会はどのように暮らしていたでしょう。**使徒 2:42** はこう語ります。**「彼らは、使徒の教え、相互の交わり、パンを裂くこと、祈ることに熱心であった。」**この一節は、初代教会の共同体についての主要な 4 つの面を示しています。彼らは次のことに熱心でした。

(1) 使徒の教え ― これは、イエスとともにいた人々の教えを常に聞き、学んでいたことを意味します。みことばから、そしてイエスの言われたことやなされたことから使徒たちが教え、全体が知識と知恵において成長しました。

(2) 相互の交わり — 現代の教会では、交わりというと、友達同士でただ話したり時間をともに過ごしたりすることだと思われがちです。しかし、ここでの交わりの基本的な意味は、「分かち合い」です。自分の経験や心配ごとを会話で分かち合うことから始めるのはよいでしょう。しかし、交わりはそれだけに留まりません。私たちの人生、時間、持ち物を分かち合うのも交わりです。44 節にはこうあります。**（使徒 2:44）「信者たちは皆一つになって、すべての物を共有にし、」**これこそ交わりです。

(3) パンを裂くこと — これは食事をともにすることと、聖餐式をともにすることの両方を指しています。ともに食事をすることはもちろん交わりでもあります。そして、聖餐式は使徒の教えと関係しています。主イエス･キリストの十字架上の死とよみがえりを覚えるものだからです。しかし、聖餐式と交わりというふたつのことばは、同じギリシャ語の単語に関係しています。そして、その単語の基本的な意味は、先ほど言ったように、分かち合いです。ですから、聖餐式は杯とパンを分かち合うことです。歴史学者によると、初代教会では食事をともにすることと聖餐式をすることに区別はあまりなかったそうです。ですから、聖餐式は多くの場合、数時間にわたる交わりと食事だったようです。

(4) 祈り — 初代教会の生活の 4 つ目の主要な側面は、祈りでした。イエスに従う者たちが、定期的にひとつになり、深く祈りました。使徒言行録を読み進めると、一致団結した祈りの後に、奇跡的なことが起こったという事例が多く見られます。人々は、自分たちの人生に主のみこころを求め、そして何度も聖霊に満たされました。

**使徒 2:45** はこう記しています。**「2:45 財産や持ち物を売り、おのおのの必要に応じて、皆がそれを分け合った。」**先ほども言いましたが、持ち物を分かち合って必要な人のニーズに応えることは、弟子たちの交わりの一部でした。これは、惜しみなくささげることの顕著な例でもあります。使徒 2 章と社会主義的思想の共通点も見えますが、そこには大きな違いがあります。まず、初代教会時代の分かち合いは、自主的なものでした。多くの人は自分の持ち物を分かち合いましたが、強制ではありませんでした。これは、社会主義における政府が発する法令による強制的分かち合いとは対照的です。次に、初代教会のクリスチャン・コミュニティーは、イエス･キリストに信仰を置いて生まれ変わった人々の集まりでした。彼らの価値観や物事の優先順位は、聖霊によって変えらました。お互いへの深い愛と心づかいが、ここですべての物を分かち合うという形で表されたのです。これは、イエス･キリストの血潮により洗い清められた人々の集まりにのみ可能なことです。

ここで重要なのは愛です。しかし、この世が知るような愛ではありません。また、政府の規定や人間の努力で生み出せる愛でもありません。ここで必要な愛は、イエスを信じる人すべての心に聖霊が与えてくださる愛です。初代教会の教会生活における重要な側面は、すべて愛の概念に要約されます。神への愛。お互いへの愛。それらがあふれるほど豊かであれば、人生が変えられ、愛に満ちたコミュニティーが形成されます。私たちが本当にイエスを信じ、聖霊を受けるなら、私たちの人生は変わります。そして、変えられた人が集まれば、新しい信仰のコミュニティーが生まれます。それは、変えられたコミュニティーです。

OIC では、すべての持ち物を分かち合おうとは思いません。私たちの置かれた状況では、賢明でも現実的でもないからです。しかし、この初代教会の模範に少しでも近づければすばらしいと思います。**マラキ 3:10** に、主からの驚くべき約束があります。「3:10 十分の一の献げ物をすべて倉に運び／わたしの家に食物があるようにせよ。これによって、わたしを試してみよと／万軍の主は言われる。必ず、わたしはあなたたちのために／天の窓を開き／祝福を限りなく注ぐであろう。」旧約聖書の時代、十分の一をささげることは律法で決められていました。新約聖書の時代にいる私たちは、モーセの律法の下にはありません。しかし、初代教会に見られる例は、十分の一をはるか

に超える例です。マラキ 3:10 に記されたささげ物をする目的に注目してください。**「わたしの家に食物があるようにせよ。」**主の家になぜ食物が必要なのでしょうか。まず、それは神殿で仕える人々のためです。つまり、祭司をはじめ、主と主の民に仕えるために日々を過ごす人のためです。次に、貧しく恵まれない人たちのお世話をするという社会的ニーズを満たす拠点としての役割を神殿が果たすことを示しています。

今日の教会でも、同じニーズがあります。主は今も同じ方法で働いておられます。また、マラキ 3:10 は当時のユダヤ人に与えられた約束ですが、惜しみなくささげる人を主が祝福してくださるという原則に変わりはありません。主の働きを支えるための惜しみないささげ物が必要なことは今も同じです。これは、私たちがもっと初代教会のように成長していくべき点です。今日の聖書箇所で読んだ他の点においても、もっと初代教会のように成長していくべきです。みことばをもっと精勤に学び、もっと深くお互いと交わり、もっと頻繁にパンをともに裂くことができます。そして、さらに深い祈りの時をもっと長く持つこともできます。

III. 結び

今日の週報には、「互いに」の聖句というプリントがはさんであります。これらのみことばに思いをめぐらすことは、さらに深い交わりを育むのに焦点を置く実践的な方法のひとつです。最後に、その中からいくつかを抜粋して読みましょう。全文は、ご自分の時間にゆっくり読んでください。

- ヨハネ 13:34-35,「あなたがたに新しい掟を与える。互いに愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。13:35 互いに愛し合うならば、それによってあなたがたがわたしの弟子であることを、皆が知るようになる。」
- ローマ 15:7,「だから、神の栄光のためにキリストがあなたがたを受け入れてくださったように、あなたがたも互いに相手を受け入れなさい。」
- エフェソ 4:32, 「互いに親切にし、憐れみの心で接し、神がキリストによってあなたがたを赦してくださったように、赦し合いなさい。」
- エフェソ 5:21 「キリストに対する畏れをもって、互いに仕え合いなさい。」
- コロサイ 3:13 「互いに忍び合い、責めるべきことがあっても、赦し合いなさい。主があなたがたを赦してくださったように、あなたがたも同じようにしなさい。」
- ヘブライ 10:25 「ある人たちの習慣に倣って集会を怠ったりせず、むしろ励まし合いましょう。かの日が近づいているのをあなたがたは知っているのですから、ますます励まし合おうではありませんか。」

祈りましょう。

IV. 祈り

天の愛する父よ、
あなたの御名をたたえます。あなたのすばらしい御業を感謝いたします。私たちがあなたに近づき、イエスといつもともに歩めるよう、助けてください。私たちを聖霊で満たし、あなたの愛を私たちの心に注いでください。親切であわれみ深く、寛容で柔和になれるよう、また、あなたが愛してくださったように人を愛することができるように、私たちを教えてください。私たちは弱く、愚かな者です。罪に陥り、あなたに対しても心をかたくなにしてしまうことがあります。主よ、来てください。私たちの心を造り変え、あなたの愛と恵みによって、私たちをあなたの御許へと引き寄せてください。私たちを悔い改めへと導き、この世の誘惑に対抗できるよう強めてください。私たちをあわれみ、罪を赦してください。私たちはイエスを信じます。また、イエスの成してくださった十字架での御業を信じます。主よ、あなたの栄光のために、この場所にあなたの聖霊を注いでください。この教会を祝福してください。大阪にあるすべての教会を祝福してください。この地において、

また世界中において、あなたが栄光を受けられますように。あなたが私たちの祈りをすべて聞いてくださるまことの生ける神であられることを感謝いたします。主よ、感謝します。イエスの御名によって祈ります。アーメン。